

漁 況 海 況 予 報 事 業

赤羽 光秋・田村 真通・中田 凱久・鈴木 史紀
天野 勝三・涌坪 敏明・兜森 良則

発 表 誌 名

昭和 59 年度 漁況海況予報事業結果報告書

抄 録

I 海 況

1. 日 本 海

昭和 59 年の日本海は観測史上稀にみる低水温であった。特に春先は平年と比べ $1 \sim 3^{\circ}\text{C}$ も低温で、夏期表層ではやや高めとなったものの、依然中・下層は激しい冷え込みが持続し、11 月になってようやく平年並に回復した。

2. 太 平 洋

津軽暖流域は日本海と同じような状況を呈した。親潮は全般に強勢で、特に 3 月は顕著で $E 142^{\circ}$ 以東の本県沖は $1 \sim -1^{\circ}\text{C}$ の極冷水で覆われていた。

II 漁 況

異常低水温の影響で、春先海峡でタイのタモすくい漁や太平洋側での養殖アワビ大量弊死等がみられ、漁況全般が危惧されたが、太平洋ではマサバ、日本海ではスルメイカ及びヤリイカの来遊不振が特に目立つ程度であった。このほか近年資源が不安視されているアカイカは本年も低調に終り、その減少傾向は続いている。